

日本支援工学理学療法学会 トピックス

2020年9月7日

日本支援工学理学療法学会 運営幹事 杉山真理

【若手理学療法士への期待】

日本支援工学理学療法学会は、主に以下の5領域を対象としています。

- ①装具療法
- ②義肢
- ③車椅子・自助具・福祉用具、ロボティクス
- ④義肢装具・福祉用具等に関する支給制度
- ⑤ユニバーサルデザイン・バリアフリー、街づくり

補装具や福祉用具は理学療法士にとってなじみ深いものです。適切に使いこなすことで、健康的な生活を継続でき、活動範囲を広げることができます。しかし、適合していない用具の使用や誤った使い方によって、その効果を発揮することができません。補装具・福祉用具を適合させ、使いこなしていくには、身体的な評価だけではなく、日常生活の評価、動作方法、社会的背景など、多岐にわたる評価が必要です。その一端を担う理学療法士の役割は大きいと言えます。若手理学療法士の皆さんの活躍を期待しています。

【関連する他領域との共通点と差異】

補装具・福祉用具を必要とする人は多岐にわたります。年代では、小児から高齢者まで、病期では、急性期から生活期にわたって、その目的と使用方法を変化させながら継続して使用します。

対象となる疾患・障害では、虚弱(フレイル)のような予防的な観点から使用する場合や、脳血管障害による片麻痺者の装具や切断者の義足、脊髄損傷者の車椅子のように、身体の一部として長期間にわたり使用する場合があります。

疾患や障害、病期をまたいで適切な対応が必要であるため、関連する他領域との連携が欠かせません。

【近年のトピックス】

COVID-19の感染拡大によって、私たちの生活は大きく変化しました。「新しい生活習慣」とともに暮らしていかなければなりません。身体の一部として補装具を使用している方も同様です。日本支援工学理学療法学会では「車椅子・支援機器ユーザーのみなさまへ COVID-19の予防(日本リハビリテーション工学協会提供)」と「新型コロナウイルス感染拡大下における義肢装具サービスに関する提案(国際義肢装具協会提供)」をHPにて情報提供しました。

「車椅子・支援機器ユーザーのみなさまへ COVID-19の予防」

<http://jspt.japanpt.or.jp/jptsat/news/COVID-19yobo.html>

「新型コロナウイルス感染拡大下における義肢装具サービスに関する提案」

<http://jspt.japanpt.or.jp/jptsat/news/corona2.html>

さらに、日本理学療法士学会による理学療法士のための COVID-19 感染予防対策動画にて、「補装具・福祉用具に使用上の注意点」をご紹介します。

<https://vimeo.com/409133133>

COVID-19 の感染拡大の影響を受け、延期になったフォーラム・学会は開催形式を変えて、今秋開催いたします。皆さん、ぜひご参加ください。

『第 9 回日本支援工学理学療法学会学術大会』

(日本地域・支援工学・教育合同理学療法学会学術大会 2020)

学術大会長 宮原拓也

日程:2020 年 11 月 7 日(土)~8 日(日)

会場:Web によるオンライン開催

<https://55thjsccpt-jsatpt-jspte-jsptm2020.org/>

『効果をあげる理学療法技術としての装具療法を考えるフォーラム (福岡)』

フォーラム長 遠藤 正英

日程:2021 年 2 月 27 日(土)

会場:福岡県立ももち文化センター(並行して Web 開催、対面は日本理学療法士協会の研修開催指針に準ずる)

<http://jspt.japanpt.or.jp/jptsat/gakujutu/forum fukuoka 2021.html>

『介護ロボットの開発と普及を考えるフォーラム』

フォーラム長 田治 秀彦

日程:2021 年 3 月 7 日(日)

会場:東京都立大学 荒川キャンパス(並行して Web 開催)

『効果をあげる理学療法技術としての装具療法を考えるフォーラム (東京)』

フォーラム長 中野克己

日程:2021 年 3 月 21 日(日)

会場:東京都立大学 荒川キャンパス(並行して Web 開催)

<http://jspt.japanpt.or.jp/jptsat/gakujutu/2020tokyo.html>

* 開催形式の変更等、詳細は HP をご確認ください。

【今後充実を図りたいこと】

理学療法はもともと、義肢装具といった工学に根ざした技術を、専門性として保持してきました。ロボット工学、AI 技術を背景に、支援工学の進歩は目覚ましく、理学療法においても、これらを最大限に活かす役割をもっております。

最新の支援工学は、使用対象者の機能を正確に評価し、フィッティングすることなしには、効果を得られません。運動機能の評価、フィッティングは理学療法士が担うべき領域です。

当分野での理学療法士の役割について、我々理学療法士自身へ、そして、支援工学を応用した理学療法効果の大きさを、広く社会へアピールすることが本分科学会の目の使命と考えています。